

施餓鬼会祭文の事

東方山安養寺は、その因由いんゆは遠く、聖武天皇の古いにしえ天平時代に良弁僧正ろうべんの創建たまし玉うところにして、真言宗宗祖弘法大師が中興じょうわし平安時代承和元年堂宇を再建せり。

思うに弘法大師の御提撕ごていせいの鎮護国家濟世利人の祖訓そくんは思念を世界の平和と国家国民の安泰に馳はせその幸福を實現せんとするものなり。

安養寺熊谷俊亮住職は本尊薬師如来 觀世音菩薩さつた 薩埵さつたの信

仰敷ふえん行のため日夜、一身ていを挺ふだんされ不断の報恩謝徳の信仰に邁進まいしんされる。至誠もを以ふたくつて一貫たいにんされ、附託かんすいの大任を完遂せんと欲つせせられるものなり。

本日ここに施餓鬼会の壇しょうぎんを莊嚴こうげし謹さやくしんで香花茶薬、百味百華ひやくみひやくかの飾膳きぜんを備ととのえて、有財無財一切之飢類きるいに供きようず。

抑々そもそも施餓鬼の法せんばつらくがんといふは、苦海を渡る船筏樂岸しんりように到るの津梁なり。

伏おもんして以おもんみれば施餓鬼の起源はインドで仏教の開祖・釈尊ざいせいじの在世時ざいせいじにおいて執り行われる。釈尊には十大弟子あり。その筆頭に

して豊かな智慧者で、その上に神通力第一と称されし目連尊者もくれんそんじやあり。

り。時は今夏のような暑さ厳しいうえ、豪雨の降り続く古代インドの夏の日、目連尊者がふと亡き母のことを思い起こす。亡き母は今どこに——とあの世での居場所を探すも目連尊者の神通力をもってしてもわからない。思い余って師である釈尊を訪ねると、「汝の母は地獄に墮ちている」と。そして餓鬼、亡者となり果て苦海をさま迷い続けているという。目連尊者にとって青天の霹靂、思わぬ出来事に泣き崩れた。目連尊者の母、名を精提女という。今生にありしおり、人に物を与えるのを惜しみ、日照りに渴きをおぼえ、一杯の水を求めて戸口に立つ僧侶に対しても水を与えず追ひ払う。我が子を可愛がるが、他人の子は邪見に扱うなど、とにかく欲をむさぼりつくす非業な行いから慳貪無際之業因けんどんむさい ぎょういんによって、死後において餓鬼ききん 飢饉くか之苦果を受け地獄へまっさかさまに墮ちたわけである。

目連尊者というりっぱな偉い坊さんであっても、母はその子育て育成において苦難を背負ってきた。家に食べものがなければ盗んできても子供に与える。子供のためなら母は罪をつくってもいとわれない。その報いを受け地獄へ墮ちようとも。

目連尊者はその母の苦しみを知らず釈尊によって初めて教えられた。次に釈尊より母を救う方法として修行中の僧侶に食べものの布施をする。餓鬼、亡者へも飲食の供養をすると忽ちまちにして地獄からの苦しみを逃れて、目連尊者の悲母は速みやかに微妙の快樂ひぼす みみょう けらくを得たという。

今もわが子可愛さに、他人には尊大、慈しみを欠き殺伐とした
光景がみかけられる。地獄に必定とした危ない橋を渡る人もいる。
お盆にご先祖参りを欠き、施餓鬼会の功力を避けて通ろうとの現
象もみられる時、本日は心豊かにご参詣を戴けた善男善女の方々ま
すます仏果をお喜び戴き円通の仏徳を納受され益々のご繁栄、健
康増進、家内安全 乃至法界 平等利益を。

南無大師遍照金剛

平成三十年八月五日

京都府向日市寺戸町西垣内

亀光庵

住職 土口哲光 敬白